

日韓学術文化交流プログラム オンライン交流の記録

1. オンライン交流概要

【目的】日韓双方で選抜された若手教育関係者が両国の教育の最新課題に関する講義聴講及び意見交換等を通し、両国の協力・友好関係について理解を深め、広く対外発信することにより、両国の協力関係の重要性を広めることを主目的とする。

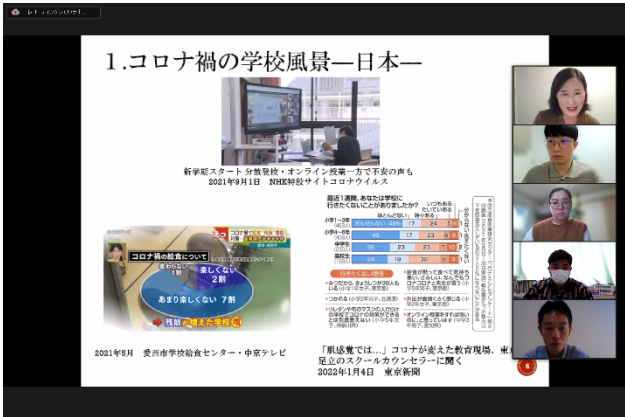
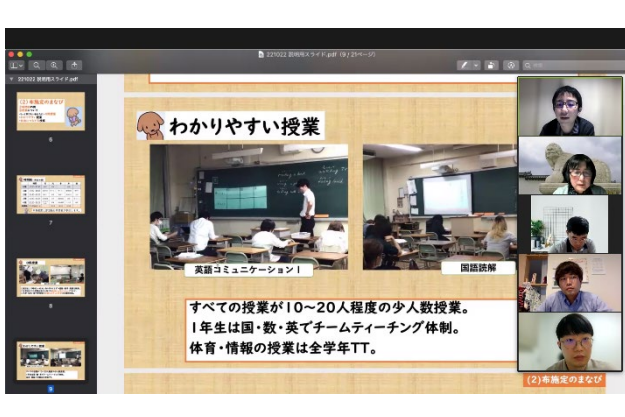
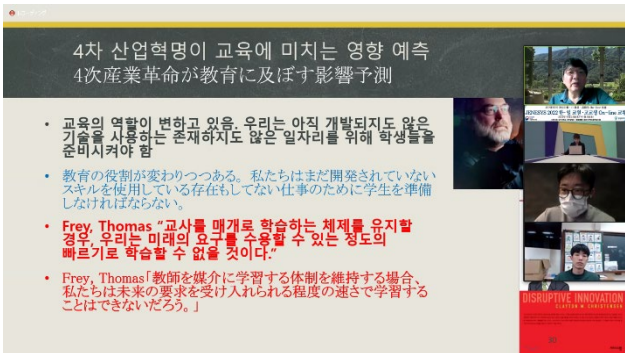
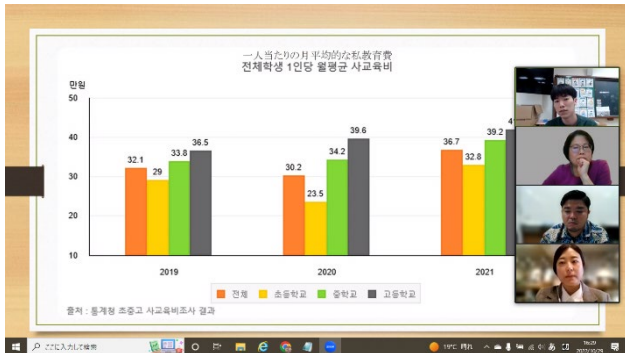
【参加者】日韓両国の教育関係者 43名

【日程】

日にち 訪問地	内容	参加者の質問・反応（参加者の人数 実績）
1回目 10月22日 栃木県、茨城県、京都府、和歌山県、愛媛県、長崎県、大分県など	【オリエンテーション】 【テーマ関連講義・質疑応答】 「日本と韓国の教師と児童生徒の相互理解に向けて—コロナ禍での教師の経験と子どもの実態に注目して—」 講師：帝京大学短期大学 准教授 申智媛氏 ① 聴講 ② 質疑応答 【視察・意見交換】 ① グループ別に各自の所属校及び教育活動を紹介 ② 意見交換	講義では、児童生徒のリーダーシップ意識等に関する質問が多くあり、日韓の参加者同士が意見を交わしました。 グループ別活動では、各参加者の所属校や教育現場の様子を紹介、関心事項について質問し合うことで相互理解を深めました。（参加者：43名）
2回目 10月29日	【テーマ関連講義・質疑応答】 「技術の進歩に伴う小中等教育の新たなパラダイムと展望」 講師：春川教育大学 教授 徐淳植氏 ① 聴講 ② 質疑応答 【テーマ関連発表・意見交換】 ① グループ別にテーマ「教育課題」に関する発表 ② 意見交換	技術の進歩やデジタル化の教育に与える影響について取り上げた講義では、ICT機器の活用等、現在の教育現場での取組みに関する質問が出ました。 グループ別活動では、両国の教育課題に関する共通点や差異点等を見出していました。（参加者：43名）

3回目 11月5日	【交流・意見交換】 ①「日韓間の教員共同宣言または今後の学校交流計画案等策定」についての意見交換 ② 成果発表準備 【成果報告会】	総括として、本プログラムで得た参加者同士のつながりを今後どのように継続させていくかをテーマに意見交換を行い、教育を通じた両国の交流計画を発表しました（参加者：43名）
--------------	--	---

2. 記録写真

	
2022年10月22日【テーマ関連講義・質疑応答】 「日本と韓国の教師と児童生徒の相互理解に向けて—コロナ禍での教師の経験と子どもの実態に注目して—」	2022年10月22日【視察・意見交換】所属校及び教育活動紹介
	
2022年10月29日【テーマ関連講義・質疑応答】「日韓小中等教育の新たなパラダイムと展望」	2022年10月29日【テーマ関連発表・意見交換】テーマ「教育課題」に関する発表

3. 参加者の感想（抜粋）

◆ 韓国 教育関係者

日本側参加者とグループ別討議を経て教育事情に共感し、より良い教育について考える機会となりました。日本の学校の良い点についてもよく理解することができました。

◆ 韓国 教育関係者

日本側参加者との対話を通して、学校や地域等の教育現場について詳しく知り、両国の教育課題を分かちあうことができました。

◆ 日本 教育関係者

参加者同士がつながる機会となった点が、最も良かったと感じています。今後も交流を続けて、自分たちだけではなく、生徒や学校間でも交流ができるように動きたいと感じました。

◆ 日本 教育関係者

韓国側参加者の生の声を聞き、共に教育課題について考えることを通じて、視野が大きく広がりました。

4. 受入れ側の感想（抜粋）

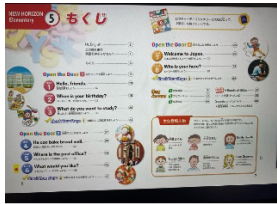
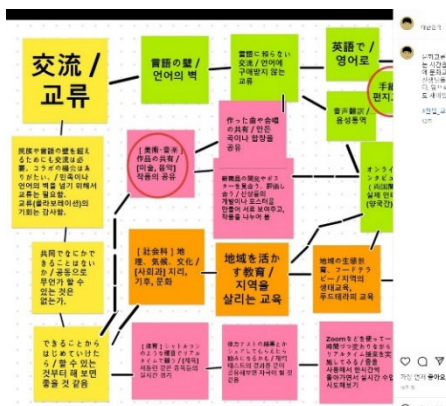
◆ 講義講師（帝京大学短期大学 現代ビジネス学科 准教授 申智媛氏）

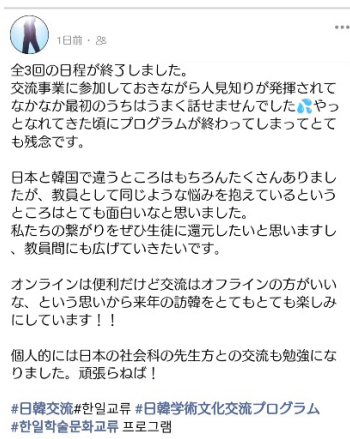
今回の講義を通して、コロナ禍の下で日韓の教師は、新たな学校と教師の役割の社会的要望に応えるという大変困難な状況に共通して直面してきたことで、今後の学校教育の課題をより深く共有できるようになったと感じました。その一方で、最も近い国同士である両国の教師文化には互いに不思議に思えるような相違点も多く、参加した先生方とともに新鮮な発見を重ねていくことができました。

◆ 韓国側実施機関（韓国長安大学関係者）

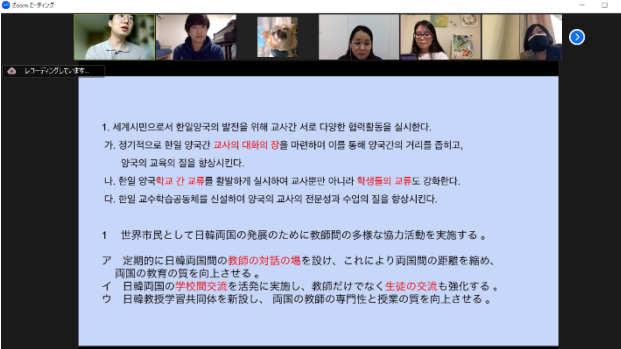
昨年度に引き続きオンラインでの実施となりましたが、有意義なプログラムを実施できたことを嬉しく思います。今回の交流を通じ、両国の参加者の距離が以前よりも近くなり、今後も日韓両国の架け橋としてご活躍いただければと思います。今回の事業をきっかけとして、参加者の皆さん同士のつながりがますます発展していくことを心から願っております。

5. 参加者の対外発信、報道記事等

 2022年10月29日（Instagram） 第2週目では、両国の教師文化、任用試験、教科	 2022年11月5日（Instagram） 約1か月間のオンライン交流は自分にとって
--	--

書、科目別指導の様子などのさまざまな点を比較しながら、互いに補うことのできる点や指導方法をアップグレードできるかを探る貴重な機会となりました。	久々の文化交流となったが、特に両国の参加者同士が交流する時間が有意義だった。今後に向けて日本の生徒たちとの文化交流も準備しており、有意義な交流となると思います。
 ← *日韓学術文化交流ブログ 公益財団法人 日韓文化交流基金が事務局をつとめてくださった日韓学術交流プログラムが今日最終回でした。日韓の教育事情についての講義を受けたり、いろんな地域にお住まいの先生方からお話を聞いたり。とてもいい経験になりました。❤️🇯🇵 これからの学校間交流、頑張りたい！ *日韓交流・韓国語・日韓学術文化交流プログラム *韓日学術文化交流プログラム	 全3回の日程が終了しました。交流事業に参加しておきながら人見知りが発揮されなかなか最初のうちはうまく話せませんでした。やっとなれてきた頃にプログラムが終わってしまっても残念です。 日本と韓国で違うところはもちろんたくさんありましたが、教員として同じような悩みを抱えているというところはとても面白いなと思いました。私たちの繋がりをぜひ生徒に還元したいと思いますし、教員間にも広げていきたいです。 オンラインは便利だけど交流はオフラインの方がいいな、という思いから来年の訪韓をとっても楽しみにしています！ 個人的には日本の社会科の先生方との交流も勉強になりました。頑張らねば！ #日韓交流 #韓国語 #日韓学術文化交流プログラム #韓日学術文化交流プログラム
2022 年 11 月 5 日 (Instagram) 日韓の教育事情に関する講義聴講や色々な地域の先生方からお話を聞いたことは、大変良い経験になりました。これからの学校間交流も頑張りたいです。	2022 年 11 月 6 日 (Facebook) 日韓の差異点はもちろんたくさんありましたが、教員として同じような悩みを抱えている点を興味深く思いました。私たちの繋がりをぜひ生徒に還元したいと思いますし、教員間にも広げていきたいです。

6. 報告会での発表内容（抜粋）

 1. 世界市民として日韓両国の発展のために教師の多様な協力活動を実施する。 ア 定期的に日韓両国間の教師の対話の場を設け、これにより両国間の距離を縮め、両国の教育の質を向上させる。 イ 日韓両国の学校間交流を促進し、教師だけでなく生徒の交流も強化する。 ウ 日韓両国間の学校間交流を新設し、両国の教師の専門性と授業の質を向上させる。	 交流のアイディア 【形式】 小学生：簡単な内容からスタートし、映像を作ったりすることも可能 →学年全体、学校全体としての取り組み 中学生：自分達で制作してより深い内容を紹介しあう事が可能/1回のみでなく複数回のプログラムにしても良い →少人数での交流（希望する生徒） 放課後などに 高校生：自分達で制作してより深い内容を紹介しあう事が可能/1回のみでなく複数回のプログラムにしても良い →少人数での交流（希望する生徒） 放課後などに 【実施】 活動日時：日韓両国間の学校間交流の場を設け、これにより両国間の距離を縮め、両国の教育の質を向上させる。 →学年全体、学校全体としての取り組み 【効果】 活動日時：日韓両国間の学校間交流の場を設け、これにより両国間の距離を縮め、両国の教育の質を向上させる。 →学年全体、学校全体としての取り組み
--	---

本プログラムで得た日韓両国の参加者間のつながりを継続・発展することを目指し、「日韓間の教員共同宣言」、教育を通じた交流計画を発表する機会を持ちました。両国のさらなる相互理解の促進及び、友好協力関係の増進につなげることを目的として、以下をはじめとする具体的な交流に関する計画の発表がありました。

●交流計画の具体例の一部を抜粋

- ・生徒同士の交流に加え、今後も定期的に参加者同士の意見交換会などを実施する
- ・Facebook 等の SNS を活用し、参加者間の連携を深めるとともに交流を継続する
- ・12 月にオンラインでの日韓の授業交流を実施することを目指し、具体的な計画を立案中

・オンラインツールを活用し、日韓での授業連携を開始しているが、今後生徒たちからもアイデアを募り、さらに交流を発展させる

実施団体名：公益財団法人日韓文化交流基金